

第4回 TOKIWA SPIRIT 英語プレゼンテーションイベント開催

2018年11月22日 於：Q棟センターホール



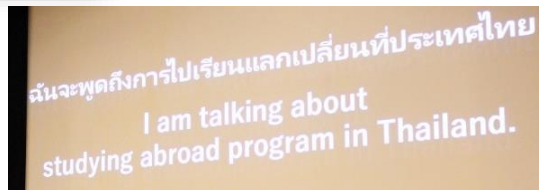
本学学生による英語プレゼンテーションイベント『第4回 TOKIWA SPIRIT』が11月22日(木)6限に開催されました。プログラム冒頭、松原副学長から、開会のご挨拶とともに発表者へエールが送られました。

会場からの投票で決まる Presentation Award 受賞者に贈呈される記念トロフィー⇒



MCを務めた人間科学部教育学科1年北條太喜さんと同学部コミュニケーション学科2年永井愛佑美さん。

発表1 国際学部英米語学科4年 戸島 愛里 さん My Most Impressive Class in Thailand



発表のトップは2017年度秋 semester に交換留学生としてタイのチェンマイ・ラジャパット大学に留学した戸島愛里さん。

読み原稿なしで、流暢な英語を披露。派遣先の履修科目の中で最も印象に残った授業は、「Thinking and Decision Making」。英語学習歴は日本人と変わらないのに、タイの学生が積極的に英語で発言する姿勢に驚いたと発表。授業やタイ社会への理解を深めるため、戸島さんがとった

戦略は、あえて「知っているふり」をしながら関係を持続させ、とにかく「沢山質問する」こと。そして、「誘われたら Yes と答える」こと。発表後、会場からは、「何でも Yes と答えて困った事態にならなかった？」との質問に、授業とカフェへの誘いが重なって困ったことがあったと答えていました。日常生活に必要なタイ語も習得しながら、タイで英語力を伸ばす選択肢もあり、と証明してくれたプレゼンテーションでした。

発表2 コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科4年 仲村 智里 さん This is "My" Story



仲村智里さんは、2017年度、「トビタテ！留学 JAPAN」に採用され、タイに留学後、福祉先進国デンマークにも留学。

スライドはすべて手書きのイラスト。主人公は、何もかも思うように上手くできないと、自信を失い6畳の部屋に閉じこもっていた「兔」。海外に興味をもち、一步を踏み出したとき、自分の世界が大きく広がった兔は、大学に入って留学を目指します。トビタテに採用され、タイからデンマークへ。1人不安に押しつぶされそうになりながら辿り着いたデンマークの留学先は、「folk・ホイスコーレ」という国民高等学校。そこは試験も成績もありません。「持続可能な社会」をテーマに、世界

各地から集う若者が共に議論をし、発表し、実地体験をします。自分のペースで学んでいい。自分の考えを否定しなくていい。徐々に自信を得てゆく兔は、かつての自分のように生きづらさを抱えた人々を支える仕事こそ自分のミッション、と考えるようになります。兔のストーリーは、「My Story」。フロアに静かな感動と温かな空気が広がりました。



発表3 コミュニティ振興学部地域政策学科4年 佐藤 勝己 さん Impacts of English Study on My Life



2017年度秋 semester にカリフォルニア州立大学フレズノ校の正規課程に留学を果たし、2018年度秋 semester の TOKIWA English Award で3人目となるダイヤモンド賞を受賞した佐藤勝己さん。

大学入学後、就職を見据えて何か1つ自信がもてるスキル・資格を身につけたいと考え取り組み始めた英語。TOEIC355点からのスタートでしたが、半年でスコアを500点代に伸ばします。交換留学に手が届く領域に入ると、アメリカの協定校への正規留学を視野に TOEFL にも挑戦し、派遣留学の切符を手に入りました。派遣先の授業の宿題は膨大。それでも休みになると、アメリカ国内をあちこち1人で旅し、見知らぬ土地でも人に尋ねながら解決を図るスキルを身につけました。今なら、「世界のどこにでも行ける」自信が身に付いたと語ります。

帰国後受験した TOEIC は一気に800点代に。英語を武器に就活も早い時期に終了し、英語力を高めるために費やした努力がいま、人生そのものに大きな影響を与えたと話し、これまで自分をサポートしてくれたすべての人に感謝したいと締めくくりました。



発表4 人間科学部教育学科2年 木村 佑多 さん My Crazy Baseball Life



教育学科に在籍しながら、常磐大学硬式野球部の部員として忙しい日々を送る木村さん。2年生になり英語の勉強に目覚め(!?)、交換留学生とも積極的に交流し、TOKIWA SPIRIT にも挑戦しました。



タイトルは、「My Crazy Baseball Life」。日本では有名な野球選手は？王貞治、松坂大輔、そして・・・木村佑多！と会場の笑いも取りながら、野球に夢中になるきっかけとなった2006年WBCの日本優勝から、尊敬する野球選手、大好きなアメリカの野球チームを紹介しました。ニューヨークヤンキースを愛してやまない木村さん。発表中、アメリカ人留学生のアレックスさんに「どの野球チームが好き？」と質問。ヤンキースでないチームの名前が返ってくると、ヤンキースのスタジャンを脱ぎ、Tシャツに全面プリントされたサメが登場する、という「仕込み」も入念でした。

将来は、青年海外協力隊の隊員となって、途上国の子どもたちに野球を教えるのが夢、だから英語を頑張るんだ、と熱く語る木村さんに、会場からは大きな拍手。相手に伝えたいメッセージがある、そのために語学の学習にも努力するーその基本姿勢の大切さを誰もが実感したプレゼンテーションでした。



発表5 人間科学部コミュニケーション学科1年 桐原 愛実 さん Touhou Project ~ The Game Which Changed Me



今回唯一の1年生参加者となった桐原さんは、自分の将来の夢に大きく影響を与えたゲーム『東方プロジェクト』について、ゲームキャラクターがデザインされたTシャツをまとい発表しました。



『東方プロジェクト』は、学生時代に創作活動を開始したゲームクリエイターZUNが原作者。シューティングゲームを中心に、音楽や書籍にも作品が広がっています。日頃から、常磐大学吹奏楽団でも活動する桐原さんは、ゲームに使われている音楽にも魅了され、ユーロビートの楽曲にも興味を持つようになり、将来は作曲も手がけたいと考えるようになったと紹介。さらに、ゲームに登場するキャラクターが日本の歴史や神話に登場する人物をモチーフに作られていることから、2つ目の夢として、世界の神話にも精通したい、と語ります。



CONCLUSION

- Touhou Project gave me many dreams
 - To be a music creator
 - To study world mythologies
 - To make a Japan tour guide for foreign fans (as a fan-made book)

Thanks for Listening !

今や日本のアニメ産業は世界に知れ渡り、コミック・マーケットには世界中からファンが訪れる時代。「日本のファン」の目線で日本のツアーガイドを作成したい、という3つめの夢も披露。英語学習への強い意欲が、滑らかな英語からも伝わりました。

発表6 国際学部英米語学科4年 佐藤 勇佑 さん The Best Experience of My Life



英米語学科で英語を学ぶ自分にさらに自信をつけたー2016年度に常磐大学がカナダから迎えた交換留学生3名と強い絆をつくった佐藤さんは、2017年度、今度は自ら交換留学生としてカナダに留学します。

初めての海外。英語を母語としない留学生が正規課程への入学を目指して切磋琢磨するランガラカレッジのLEAPに在籍し、クラスメートはもちろん、元交換留学生たち、さらにその仲間たちとどんどん交流の輪を広げ、英語力、とりわけ英会話力を着実にアップさせたと、自然に流れる英語で説明。さらに、多文化共生の進むカナダで、世界各地から集う留学生や東欧からカナダに移住したホストファミリーとの生活を通して異文化理解の視点も得られたと紹介しました。会場から「カナダで一番苦労したことは？」との質問に、「ホームステイ先の朝食・夕食が、4ヶ月間、毎日同じメニューだったこと」と苦笑いしながら回答。「どうやって慣れたの？」と聞かれて「慣れないまま終わった」との答えに会場も笑い。それでも、カナダ留学は何にも代え難い貴重な体験だった、とカナダへの想いが会場を包みました。



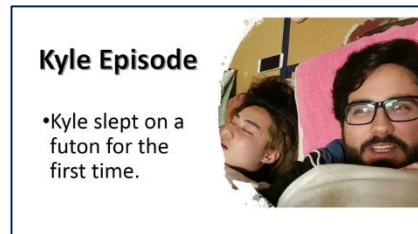
発表7 国際学部英米語学科4年 大高 光聖 さん How My World Became Bigger



英語での発表者最後は、英米語学科4年生の大高さん。決して能動的に動くタイプではなかったと自己分析しながら、1年次には国際交流会館に入居し交換留学生と共同生活。

ルームメイトのアメリカ人学生を自宅に招き、初めて布団で寝る体験してもらったとエピソードを披露。今でも親交が続いていると紹介しました。その後も、留学生との遠足やパーティーなど様々な国際交流活動に参加し、留学生との関わりから自分の世界をどんどん広げたと話します。

2年次には、高校生英語プレゼンテーションコンテストの司会を務め、4年生の夏休みにはイギリス研修に参加。自分にプレッシャーを課しながらやるべきことを増やし、「Snowball Effect」をもたらしたと説明。受け身になりがちだった自分を追い込む姿に、イギリスのホームステイ先でお世話になったホストファーザーから、「You do not have to change your style」と言われて、「なるほど、そうかも」と肩の力が抜けたと紹介。自分らしく、自然体でプレゼンテーションに臨む姿が印象的でした。



特別発表 国際学部経営学科4年 藤田 早紀子 さん 我与汉语 (私と中国語)



プログラム最後に登場したのは、経営学科4年生の藤田さん。4年間学び続けた中国語で、「中国語と私」をテーマに発表しました。

藤田さんは、1年次の春休みに台湾研修に参加。初めての海外ー習っている中国語が通じるのか不安を抱えながら、受入校の台北教育大学での研修を通して、中国語を学ぶことが益々楽しくなると語ります。翌年には、台湾研修に参加した仲間だけで再度台湾を訪問し、2年次の春休み茨城県国際交流協会が主催する上海スタディツアーに



も参加。中国に進出する日本企業や日本貿易振興機構(JETRO)などを訪問し、日中間の密接な経済関係を実感しました。さらに中国語検定にも挑戦し、3年次に中国語検定3級に合格。大学で学び始めた中国語を軸に海外に目を開き、「卒業後もどんどん新しいことに挑戦していきます！」と力強く語る藤田さん。堂々とした中国語での発表に、会場からの大きな拍手が起こりました。





松原副学長から 8 名の発表者一人ひとりに参加賞が授与されました。



総合政策学部 Tod Tollefson 准教授から、全体講評をいただきました。国際交流活動や留学から視野を広げ、自信をもってプレゼンテーションを披露する姿に賛辞が送られました。今後も継続して語学学習に取り組みながら、地域と世界をつなぐ人材となることへの期待が述べられました。



プレゼンテーション・アワードのトロフィーが、フロアから最も票を得た仲村智里さんに贈呈されました。



発表者 8 名と司会を務めた学生、さらに運営をサポートした学生や最後までフロアに残ってくださった聴衆の皆さんで記念撮影。どの発表者が賞を獲っても不思議でない、素晴らしい発表の余韻に浸りました。

アワードを受賞した仲村さんと、応援に駆けつけたゼミナール担当教員でもあるコミュニティ振興学部池田学部長とツーショット。Congratulations!

